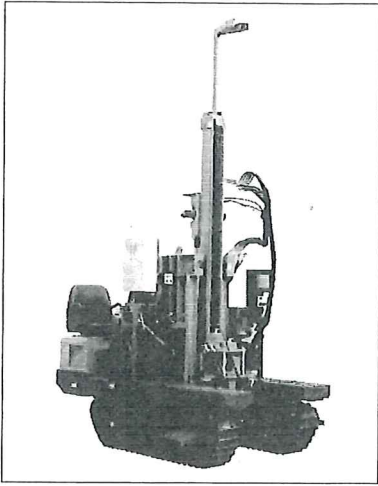


ワンマンオペレートで高速施工

グランテック

9月からサービス開始

コンテックスHDグループのグランテック(高岡市石瀬、永島勝之社長)は、狭険地に特化した日本初の地盤改良技術「スーパーナロー工法」を独自開発し、9月からサービ



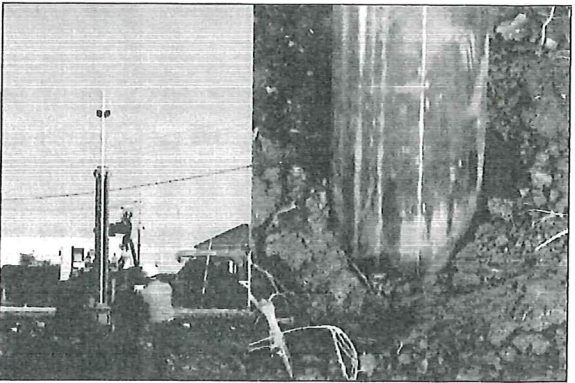
スーパーナロー機

スを開始する。運搬から施工まで一人で行うワンマンオペレートに加え、安定した押圧による高速施工が可能。人手不足解消や工期短縮による地盤改良工事の円滑化を目指す。同工法は、小型の地盤改良専用機「スーパーナロー機」(車両幅約1300mm、総重量約2t)を使用し、軽自動車一台分の走行幅で自走による搬入が可能。一般重機が入ることができない幅2m程の狭険地に対応し、建物が密集する都市部の地盤改良に適している。施工時の最大押圧力は18・2KNで、硬い地盤に突入する際は回転式による圧入でスピーディーに施工できる。鋼管50本

狭険地への搬入



施工時の様子



日本初の狭険地地盤改良「スーパーナロー工法」

(朝日町道下地内)の土地・建物の跡地利活用に向けたサウンディング型市場調査(7月21〜22日)を、3事業者参加で実施した結果、提案はいずれも現学校施設の一部を使用して活用を図る内容であったことなどを公表した。

対象となる土地・建物(朝日町道下地内)の土地面積は約7万2100㎡と、校舎(鉄筋コンクリート造4階建て6831㎡、昭和49年竣工)耐震化済み、第1体育館(鉄骨造2階建て1495㎡、同47年竣工)同、第2体育館(鉄骨造2階建て1930㎡、同62年竣工)新耐震基準で建築)、その他(セミナーハウス、トレー

シ子ども、学生、社会人を対象とした合宿施設として活用▽体育館はそのままの活用、グラウンドは多目的な活用が検討可能▽既存の教室をそのまま活用し、テレワークやオンライン授業などの拠点、業務改善やスタートアップなどのための実証実験の場として利用▽建

営方法については①運営事業者有無の見極めが必要②産官学民が協力できる環境が必要▽本事業に専任として従事できる人材がいるかどうか、との意見があった。



3年度で閉校する

地盤伏木 10月7日に

北陸地方整備局伏木富山港湾事務所は10月7日、「伏木富山港(新湊地区)岸壁(14m)(中央2号)(改良)施工方策検討業務」を一般競争入札(総合評価落札方式)で開札する。業務内容は、伏木富山港(新湊地区)岸壁(14m)(中央2号)(改良)及び泊地浚渫について過年度の施工検討、実績及び工事制約条勘案した整備完了未施工方法及び工程計見直し検討並びに泊渫の土砂処分方策のを行うもので、履行が令和3年3月19日

モニターで確認して高品質な施工を実現。施工管理はタッチ式パネルを採用し、管理装置モニターで作業状況を記録し、SDカードに保存することもできる。同工法について同社副社長の永井理之氏は、

県内一斉屋外広告物安全確認パトロール

富山県

きょう合同で実施

国土交通省が9月から10日までの期間「屋外広告物適正化」と設定し、屋外広告の意識啓発を図る。富山県内市町村及び県屋外広告美術協同と協力し、屋外広告県内一斉安全確認パトロールを実施するもので、トロール区域は、県幹線道路沿いや商店街。実施内容は、目視り、屋外広告物に破経年劣化等の異常がかを確認。屋外広告所有者や管理者に対し、定期点検の実施を促しを配布。明らかに理されずに放置される、はり紙、はり札、告旗又は立て看板を

富山県は、国の「屋外広告物適正化期間」に合わせて、県内市町村及び富山県屋外広告美術協同組合との合同による県内一斉屋外広告物安全確認パトロールを1日に実施する。県では、風雨や経年劣化により屋外広告物が倒壊、落下することのないよう、屋外広告物の許可の更新時に安全点検報告書の提出を求めるなど、公衆に対する危害の防止